

令和4年度東京都自立支援協議会
(第1回)

令和4年6月6日

東京都心身障害者福祉センター

(午後1時30分 開会)

○外川課長 皆様、音声が届いていますでしょうか。少し手を挙げていただけるとありがたいです。大丈夫ですかね、はい。

それでは、お待たせいたしました。定刻となりましたので、ただいまから、令和4年度東京都自立支援協議会第1回本会議を開催いたします。

皆様におかれましては、大変お忙しい中、委員としてご就任いただき、誠にありがとうございます。

私は、本協議会の事務局を務めさせていただきます、東京都心身障害者福祉センター地域支援課長の外川と申します。どうぞよろしくお願いたします。

開会に先立ち、幾つかのお願いがございます。本日の協議会は、オンラインを活用して進めます。そのため、発言時には、最初にお名前を言っていただき、軽く挙手をお願いしたいと思います。他の委員に質問をするときなどは、「〇〇委員に質問します。」等の前置きをお願いいたします。オンラインで参加されている委員の方は、発言するとき以外は、音声マイクをミュートにしてください。会場の委員の方は、発言のときに、マイクを使用してください。

それでは、お手元の資料の確認をお願いします。次第に、資料の一覧を掲載してございますのでご覧ください。

資料1から資料6まで、こちらの資料は、報告事項や協議事項の提案の際に使用いたします。参考資料1から参考資料6まで、そして冊子。びわ色の冊子、令和3年度版東京都内の自立支援協議会の動向、こちらの資料は、グループ討議などでご活用ください。

なお、今年度より委員になられた方への委嘱状につきましては、別途郵送させていただきますのでご了承ください。

最後に、本日の協議会は、グループ討議の時間を除きまして、傍聴を希望する方に公開しております。また、記録用の写真撮影を行わせていただくとともに、速記を手配しております。本協議会の資料及び議事録につきましては、後日、当センターのホームページで公開させていただきます。

それでは、次第に沿って、進めさせていただきます。

初めに、東京都心身障害者福祉センター所長の梶野よりご挨拶申し上げます。

○梶野所長 心障センター所長の梶野でございます。

日頃より東京都の障害者福祉施策の推進にご理解、ご協力いただき、誠にありがとうございます。

また、皆様にはご多忙のところ昨年度から引き続き、あるいは今年度新たに本協議会の委員をお引き受けいただきまして、重ねて御礼を申し上げます。

なお、先ほど事務局から説明がありましたが、本日の会議はオンラインと会場参加を併用する形で開催しておりますので、あらかじめご承知おきください。

さて、ご存じのように、東京都自立支援協議会は障害者総合支援法に基づき設置されたもので、平成19年度に立ち上げまして、平成24年度第3期から事務局が当センターに移りまして、現在、第7期の2年目を迎えているところでございます。

この第7期は、「都と地域の協議会活動における情報共有を促進し、当事者と共に地域課題への取組を考える」をテーマとして設定いたしました。そして、今期のスタートとなる令和3年度は、当事者の視点に立って地域課題を検討する都の活動方針の下、年2回の本会議のほか、コロナ禍の中、実施方法等を工夫しながら地域自立支援協議会交流会、また東京都自立支援協議会セミナーの開催、そして動向集の発行に取り組んでまいりました。

令和4年度、今年度も委員の皆様には昨年度の議論なども踏まえつつ、年2回の本会議でご意見をいただくほか、交流会、セミナー、動向集といったグループ活動のメンバーとして、企画のご提案をいただくことで、地域の地方協議会活動の活性化、また都の協議会活動の普及啓

発をより一層推進していければというふうを考えております。

また、少々気が早いかもしれませんが、今年度は第7期の取りまとめの年度でもございますので、年度後半にかけましては今期の取組を次の期にどうつなげていくかといった視点も持ちつつ、取り組んでいきたいというふうを考えているところでございます。

委員の皆様にはそれぞれのお立場から積極的にご発言をいただきますとともに、本協議会の取組に特段のお力添えをいただきますようお願いいたしまして、簡単ですがご挨拶といたします。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○外川課長 ありがとうございます。

次に、委員の皆様をご紹介させていただきます。

資料1をご覧ください。

それでは、これから名簿の順に、ご紹介申し上げます。今回から参加されている委員の方には、簡単な自己紹介をお願いしたいと思います。

初めに、CILちょうふ代表、秋元妙美委員です。第7期の副会長、交流会のリーダーをお願いしています。

○秋元副会長 秋元妙美です。お願いします。

○外川課長 練馬区石神井総合福祉事務所障害者支援係長、秋山美里委員です。

一言お願いいたします。

○秋山委員 こんにちは。練馬区石神井総合福祉事務所障害者支援係の係長をしております秋山と申します。そうですね、途中からの参加で、ご迷惑になるかもしれませんが、いろいろどうぞよろしくお願いいたします。

○外川課長 障害者就業・生活支援センターオープナー施設長、荒木浩委員です。

一言お願いいたします。

○荒木委員 今年度より私、荒木が協議会の委員のほうに就任いたしました。よろしくお願い申し上げます。

○外川課長 続きまして、葛飾区福祉部障害援護担当課長、石川まどか委員です。第7期の副会長、動向集のリーダーをお願いしています。

続きまして、江東区保健所保健予防課保健指導担当係長、稲垣孝子委員です。

続きまして、武蔵野大学人間科学部人間科学科教授、岩本操委員です。第7期の会長をお願いしています。

○岩本会長 よろしくお願いいたします。

○外川課長 江戸川区福祉部障害者福祉課愛の手帳相談係長、押尾佳子委員です。

続きまして、大田区立障がい者総合サポートセンター、相談支援事業所管理者、神作彩子委員です。よろしくお願いいたします。

○神作委員 よろしくお願いします。

○外川課長 続きまして、社会福祉法人原町成年寮、サザンクロスかつしか所長、久保玄委員です。

○久保委員 よろしくお願いします。

○外川課長 一般社団法人ソラティオ、ピアサポート専門員、小阪和誠委員です。本日は所用により欠席となります。

東京大学医学部附属病院精神神経科、ピアサポートワーカー、佐々木理恵委員です。よろしくお願い申し上げます。

○佐々木委員 よろしくお願いします。

○外川課長 東京都障害者施策推進部地域生活支援課長、東條左絵子委員です。よろしくお願い申し上げます。

○東條委員 よろしくお願いいたします。

○外川課長 社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会、本人部会ゆうあい会役員、中村真一委員です。よろしくお願いします。

公益社団法人東京都医師会理事、西田伸一委員です。

○西田委員 西田です。よろしくお願いします。

○外川課長 特定非営利活動法人クローバー事務局長、藤井亘委員です。よろしくお願いします。

○藤井委員 藤井です。引き続きよろしくお願いします。

○外川課長 よろしくお願いします。

府中市福祉保健部障害者福祉課基幹相談支援担当係長、増島薫委員です。本日は所用により欠席となります。

社会福祉法人原町成年寮、生活介護事業所アンジュ、村中友江委員です。

○村中委員 村中です。よろしくお願いします。

○外川課長 よろしくお願いします。

社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会副理事長、森山瑞江委員です。第7期の副会長、セミナーグループのリーダーをお願いしています。よろしくお願いします。

○森山副会長 よろしくお願いします。

○外川課長 社会福祉法人西多摩療育支援センター、障害者支援施設楽、施設長、柳瀬達夫委員です。

○柳瀬委員 よろしくお願いします。

○外川課長 三鷹市健康福祉部障がい者支援課長、立仙由紀子委員です。

○立仙委員 よろしくお願いたします。

○外川課長 よろしくお願いします。

音声が届きにくい方がいるようなので、確認をしながら進めていきたいと思ひます。

次に、事務局の紹介をさせていただきます。

東京都心身障害者福祉センター所長の梶野でございます。

○梶野所長 梶野でございます。よろしくお願いたします。

○外川課長 東京都心身障害者福祉センター地域支援課課長代理の井領です。

○井領課長代理 井領です。よろしくお願いたします。

○外川課長 改めまして、東京都心身障害者福祉センター地域支援課長の外川です。本日はよろしくお願いします。

それでは、これからの議事進行は、岩本会長にお願いしたいと存じます。よろしくお願いします。

○岩本会長 では、ご挨拶の前に、皆様、音声は聞こえていらっしゃいますでしょうか。聞こえておられない方は、手を挙げていただくなり、チャットに入れていただくなりしていただければと思ひます。聞こえづらいというお声もあるようなので、話が伝わっているかが大事ですので、遠慮なく、よく聞こえない方はおっしゃっていただければと思ひます。

改めまして、第7期の会長を務めさせていただいております岩本と申します。皆様、お元気でしょうか。コロナの影響を受けて3年目の年度初めを迎えております。このオンラインも慣れたかと思うとなかなかうまくいかないこともあって、皆様もいろいろご苦労いただいているところかと思ひます。

特に昨年度は7期の1年目にもかかわらず、集合での会議や打合せがなかなか難しく、その中で三つのグループで企画、運営をしていただきまして誠にありがとうございました。協議会活動を止めることなく進めていただいたことが何よりだと思ひております。

今年度は7期の2年目ということで、先ほど所長のお話にもございましたように、昨年度で得られた知見を活かしつつ、また今年度新たに皆様と一緒に協議会活動を進めてまいりたいと思ひております。今日は私もこの事務局のあるセンターに来ておりまして、あと村中委員と久

保委員の3人がここに来ております。コロナの状況もありますけれども、オンラインと対面とうまく組み合わせながら今年度も進めてまいりたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、議事を進めさせていただきます。

本日は報告事項が二つ、協議事項が三つ、その他として二つが予定されており、結構盛りだくさんの内容となっております。本日の会議は16時、午後4時終了予定です。長時間にわたりますけれども、充実した議論にしていいただければと思っておりますので、よろしく願いいたします。

では初めに、報告事項について、事務局のほうから、説明をお願いいたします。

○外川課長 それでは、報告事項の1番です。

初めに、令和3年度の東京都自立支援協議会活動について報告いたします。

お手元の資料2をご覧ください。

第7期の東京都自立支援協議会につきましては、テーマを「都と地域の協議会活動における情報共有を促進し、当事者と共に地域課題への取組を考える」としまして、令和3年度と令和4年度の2年間をかけて取組を進めております。

第7期のスタートとなる令和3年度の活動方針は、「当事者の視点に立って地域課題を検討する」といたしまして、年2回の本会議のほか、「地域自立支援協議会交流会」、そして「東京都自立支援協議会セミナー」、そして今回お手元に配付させていただいております「動向集の発行」に取り組んでまいりました。

地域自立支援協議会交流会につきましては、9月27日に開催し、完全オンラインによる開催で、14区14市の地域自立支援協議会委員の皆様や事務局の方々にご参加いただきました。

12月13日に開催いたしました東京都自立支援協議会セミナーにつきましては、152名の参加がございました。また、当日のセミナーの様子を収録いたしまして、後日、期間を定めて動画配信をいたしました。動画配信希望者は328名でした。

続きまして、資料3をご覧ください。

令和3年度版の東京都内の自立支援協議会の動向、いわゆる動向集についてです。

編集に当たりましては、本協議会のグループ活動でのご意見を反映し、調査項目に「医療と福祉に関すること」を追加、そして当事者委員の選任経緯などの設問を加えました。

調査結果、当事者の参画状況について、令和2年度と比較すると2名増加しており、全体に占める割合も微増傾向にあるということが分かりました。また、三宅村さんが新たに地域自立支援協議会を設置されました。調査票の記載は、区市町村から提出された原本、原文どおりとしており、また、今回そうしたことも含めまして、このびわ色の冊子の編集後記のほうに掲載させていただくことにしました。後ほどご覧いただければと思います。

事務局からは以上になります。

○岩本会長 事務局からのご報告、ありがとうございました。

ただいまの報告事項について、何かご質問、ご意見がございましたら挙手をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

報告事項ということで、昨年度、委員の皆様が企画、実行してくださった内容のまとめだと思っております。第6期から本協議会では、当事者と共に、当事者と協働した協議会活動を軸に進めてきまして、第7期は、今ご報告いただきましたテーマに沿って活動してまいったところがございます。皆様からよろしいでしょうか。

では、皆様から特になければ、私から1点質問させていただきます。

昨年度の第2回2月の本会議で、地域における相談支援体制の整備推進についてということで、情報提供いただき、イメージ図をお示しいただいたと思うんですけれども、この件について、その後どうなったのか私も気になっておりました。少し状況を教えていただければなと思

います。いかがでしょうか。

○外川課長 それでは、障害者施策推進部の地域生活支援課長のほうからお願いしたいと思いません。

○東條委員 ただいまご質問いただきました地域における相談支援体制の整備推進についてでございますけれども、前回、2月の協議会のほうで前任よりお話しさせていただきました、まだ少し時期的にそれ以上の資料をお示しするというのが今時点で難しいという状況ではございますけれども、引き続き予算要求に向けて検討を進めております。また時期を見て皆様にお伝えさせていただければと存じますので、どうぞよろしくお願いたします。

○岩本会長 ご説明ありがとうございます。また進捗状況がございましたらご紹介いただけるとありがたいです。相談支援体制ということで、委員の皆様も私も非常に関心の高いところですので、引き続きよろしくお願いたします。

それでは、皆様から特にご質問、ご意見がないようであれば、協議事項に移りたいと思いません。

協議事項の一つ目は、令和4年度活動方針（案）についてです。事務局から資料の説明をお願いいたします。

○外川課長 それでは、お手元の資料4をご覧ください。

本日、令和4年度の活動方針（案）について、第7期の締めくくりとなる令和4年度は、これまでの取組の成果を踏まえ、地域課題に対して、よりフォーカスを当てた活動方針としてはどうかというご提案でございます。

具体的には、「当事者と共に地域移行・地域生活支援における課題を考える」という案を活動方針として提案させていただきました。ご意見、ご質問などをお願いします。

○岩本会長 ありがとうございます。今年度の活動方針（案）についてご説明いただきました。

これから皆様と一緒に進めていく方向性をお示したものですので、是非ご意見、ご質問などを挙げていただければと思いますがいかがでしょうか。

昨年度は、「当事者と共に地域課題を考える」という大きなテーマを置いて、交流会やセミナーのテーマ設定を行ってまいりました。その中で、セミナーでは地域移行にフォーカスを当てた企画を立てて開催したわけですが、地域移行についてはまだまだ課題が多いということを感じました。そこで、事前に副会長さんとも相談して、今年度は地域課題の中でも、地域移行・地域生活支援にフォーカスを当てた取組をしてはどうかということになりまして、今ご説明いただいたように案をお示しいただいたところです。

皆様、いかがでしょうか。もしよろしければ、交流会・セミナーで地域課題をテーマに取り組んでいただいたので、担当副会長さんから何かご意見をいただければと思うんですが、いかがでしょうか。

秋元さん、お願いしていいですか。

○秋元副会長 事前に私のほうはいただいていたんですけども、言葉で、当事者と共になんですけど、何だろうな、当事者が主役になるような言い回しはないかなとすごく思っていて、どうしても支援者のほうが引っ張っていく感じにならないかなというのが、私が気になったところなんですけども、もし何かいい言葉があればと思って、あとは皆さんの意見を聞いてというふうに思ったんですけども。

○岩本会長 秋元副会長、ありがとうございます。当事者が主体となるような、そういった言い回しはないかなというようなご意見をいただいたと思います。

この件に関して皆様からもアイデアをいただきたいと思えますけれども、続けて森山副会長から、セミナーを昨年度企画なさって、今年度の活動方針のテーマですね。案について何かご意見をいただけたらと思います。お願いしてよろしいでしょうか。

○森山副会長 昨年は、やはり地域移行、その前の年よりもまた更に切り口を変えた地域移行と

ということで、地域、本人、家族、支援者はこのように変わっているよと、変わってきたよということを経験を主に、そこにフォーカスを当てたように思うんですが、今度は更に地域生活支援という、地域で暮らす上でというところにも目を向けて掘り下げていければなというふうに思います。

以上です。

- 岩本会長 森山副会長、ありがとうございます。そうですね、セミナーでは地域移行支援をテーマに講演とシンポジウムを行い、いろいろ当事者の方のお話も伺えてとてもよかったというご意見、ご感想も多かったんですけども、実際にはいろんな課題や難しさもあるので、その辺りをもう少し突っ込んでいけないかという委員の方からのご発言もありましたので、少し深めてという意味もあるかと思います。

あと皆様、いかがでしょうか。先ほどの秋元副会長からの本人を主体としたような言い回しということも含めて、また、それ以外のご意見も是非委員の皆様からいただけるといいかなと思っております。いかがでしょうか。

なかなかオンラインでの発言というのはしにくいものかと思いますが、目くばせというものができない辛さがございますけれども、佐々木委員、今の秋元副会長からのご意見も受けて、何かお感じになっていることをご発言いただけるとありがたいです。いかがでしょうか。

- 佐々木委員 ありがとうございます。聞こえますか。

- 岩本会長 大丈夫です。

- 佐々木委員 秋元委員の当事者主体という、もっと別な言い回しというのが今私も思い浮かばなくて、何かそういったのがあるかなとは思ったんですけど、当事者主体という言葉がここ何年かずっとはやっているという言い方がいいか分からないんですけど、それになじんでしまっている自分もいるので、新しい言い方というのが今すぐに浮かばない状況です。すみません。でも何か別の言い方のほうが入るんだったら、それは言葉を探していけたらいいのかなとは思ったところです。

ひとまず以上です。

- 岩本会長 ありがとうございます。今の佐々木委員のご意見、当事者主体という言葉に慣れてという中には、言葉だけがよく使われているんだけど、実態が伴っていないということも今のご意見の中にはあるのかなと。だからやはり私たちがはっと気づくような、そういった言い回しになるといいのかなと思って伺いました。ありがとうございます。

ほかの委員の皆様、いかがでしょうか。せっかくですからいろいろご意見いただけるとありがたいです。

どうですかね。秋元さん、なかなかネーミングが。

どうぞ。

- 秋元副会長 自分で言っておいてあれなんですけど。

- 岩本会長 何か言いたいことはあるんだけど、言葉にならないという感じですよ。

- 秋元副会長 佐々木委員も言ってくれたように、当事者主体とか当事者と共にというのは本当にずっと言われてきていて、言われてはきてはいるけど実際にそれが今できているかどうかというところに何か問題意識というか、考えを置いてもう一度理解してもらいたいというのが私の中であって、何かもうちょっとないかなと思ったんですけど、なかなかやっぱり言葉って難しいと思うので、はい。皆さんから何かあればなとは思ったんですけども。

- 岩本会長 ありがとうございます。

- 秋元副会長 藤井さんから挙がっています。

- 岩本会長 すみません。藤井さん、お願いします。

- 藤井委員 御無沙汰しております。

そうですね、当事者という言葉は僕もいつから使っているのかよく分からないんですけど、

支援をする側からすると、支援をする側も当事者だし、もちろん障害のあるご本人も当事者だし、また、例えば地域の人でいえば地域の人も当事者だし、そんな感じになると思うんですよ。

なので、なかなか難しい言葉だなといつも思いながら使い方にはすごく気をはらっているところなんですけど、テーマとして考えるとすれば、ご本人、当事者主体というか、障害のある人たちを主体というふうにするのであれば、例えば私たちの地域での暮らしにおける課題を考えると、何かそんなような言葉に変えたほうがいいのかと思っていました。何か私たちとかというと、どこまでが私たちなのかということも考えなきゃいけないかもしれませんが、どちらかというとな僕たちが何か地域で暮らしている人たちと一緒に何か考えるときは、私たちという言葉たまに使ったりするので、そんな言葉はありかなと感じていました。

以上です。

○岩本会長 ありがとうございます。

ほかには何かご意見。

久保委員、お願いします。どうぞ。

○久保委員 すみません。原町成年寮の久保です。よろしくお願いします。

言葉尻というか、そういうことではなくて、私、実際に今、東京都の地域移行促進のコーディネート事業のグループホーム側のコーディネーターをやっていて、地域という言葉なんですけども、入所施設の方に多くお会いして、地域に戻りたいとご本人から聞いても、ご家族が反対して戻ってこられないというケースが散見されてきて、当事者の方の実際の声をいっぱい聞いて反映させたらいいんじゃないかなと。私、グループホーム側の受入れをやっているんですが、実際グループホームの依頼よりも、入所施設を探してもらえませんかという依頼が多かったりする実際があるというのが、たまたま村中さんがうちに第二皇海荘から来ましたが、重い方のグループホームの数も足りていないし、あと入所施設、大体今、1,000人ぐらい待っているんですよ、東京都。というところで、それを今、一人、行動障害の方が行き場なくて、グループホームも入所先も探したけどやっぱり見つからないみたいなどころがあるので、何か当事者、本当の困っている当事者もそうだし、特に言葉のない障害の方に代弁していくという意味でも、何か実際の声を吸い上げてもらえればなというふうに今話を聞いていて思いましたという形です。

この言葉を変えてくださいという意味ではないんですけども、本当の実際の課題を聞いてという中で何が課題なんだろうということを、うちはグループホームをやっているんで、移動支援ってとても大切なんですけど、いろんなところが活動を中止しちゃったり、最低賃金は上がっているんだけど、入ってくるお金が変わらないので、経営が成り立たなくて、土日に出かけられなくなっちゃったりみたいな、そんなこととかあるので、何かそういうのを本当に当事者の方からお声を聞けるといいんじゃないかなというふうに思いました。

すみません。長くなっちゃって。以上です。

○岩本会長 久保さん、ありがとうございました。どれもとても貴重なご意見で大事なことだと思います。それを一つのフレーズにするとどうしたらいいんだろうということが悩ましいんですけども。そうですね、6期の1年目だったと思うんですけども、「当事者の声を反映させた協議会活動」をテーマに置いたんですね。やはり「当事者と共に」といったときに、ご本人の声が中心にあるのかを問い直すというような、そういったご意見でもありました。また藤井さんからは、当事者とは誰かという、本質的な問いなんですけれども、だから「私たち」という、それぞれの当事者性を問うということもあるのかなと思って伺っていました。誤解があったら申し訳ないんですけども。

もし、今のご意見の中で、当事者と共にという中に、もう少し当事者を中心に置く視点があつたほうがいいのかということでしたら、例えば当事者の思いや声を軸にというか、中心にという

か、そういったところを軸にして地域移行・地域生活支援における課題を考えるというフレーズも一つあるかなと思いました。すみません、事務局に確認なんですけど、これは今日確定。

○外川課長 できれば。

○岩本会長 できれば。どうでしょうね。

佐々木委員、お手が挙がっていますよね。お願いしていいですか。

○佐々木委員 いいですか。ありがとうございます。

今の皆様のやり取りを少しお伺いして、会長が今言ってくださっていた当事者の声や願いを中心にするとかだとどうかなというふうに思ったんですけど、ひとまず以上です。

○岩本会長 当事者の声・願いを中心とした地域移行・地域生活支援における課題を考える。これ、地域支援の課題ですよ。課題を考える。すみません。ドタバタしていますけれども、もう一度。

当事者の声・願いを中心とした地域移行・地域生活支援における課題を考える。少し長いですが、こちらのほうが本来の趣旨というのが表現されているという理解でよろしいでしょうか。いいですか。

そうしましたら、今の皆様のご意見も踏まえて、テーマ案を修正して設定するということがよろしいでしょうか。今日決めるということですので、心残りのないようにとするんですが、大丈夫ですか。よろしいでしょうか。

あとは、先ほどの藤井さんのご提案の、当事者性をそれぞれが認識する、自覚するということも、すごく大事なテーマだなと思ったんですけども、なかなか一つのフレーズに入れ込み切れていないと私も思っています。その辺りは、交流会とかセミナー、動向集の企画の中で、入れ込んでいただくとありがたいと思うんですが、いかがでしょうか。

(異議なし)

○岩本会長 そうしましたら、この活動方針のテーマのところは、今修正をした言葉に変えて、この活動方針(案)というのは案を取っても大丈夫でしょうか。皆さん、よろしいでしょうか。

なかなか皆さんの顔が見えないので、進めていいのか心配になりますが、特にお手も挙がっていないということで、これで7期2年目の方針ということで進めていきたいと思えます。ご了解いただけますでしょうか。

(異議なし)

○岩本会長 よろしく願いいたします。

それでは、協議事項の二つ目ですね、令和4年度東京都自立支援協議会活動計画(案)について、こちらも事務局から資料のご説明をお願いいたします。

○外川課長 それでは、資料5をご覧ください。

令和4年度の活動計画(案)について説明いたします。

令和4年度につきましても、年2回の本会議のほか、8月22日には地域自立支援協議会の皆様との交流会、そして、12月12日には東京都自立支援協議会セミナー、そして、令和4年度版東京都内の自立支援協議会の動向、いわゆる動向集の作成、作成に当たっての調査などに取り組んでいきたいと考えております。

大きくは、交流会、セミナー、動向集作成という三つの取組を皆様と一緒に進めていきたいと考えております。

簡単ではありますが、私のほうからの説明は以上になります。

○岩本会長 ありがとうございます。今年度の活動計画(案)についてご説明いただきました。これは、交流会とセミナーは、日程を昨年度の時点で決めているところもありますけれども、それに沿ってこのような流れで進めてはどうかというご提案でございます。

皆様から、何かご意見、ご質問はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

なかなかタイトなスケジュールだなと思っておるところですけれども、例年、このような流

れで進めさせていただいております。今年度、初めての方はどんな感じがイメージしづらいかもしれません、こちらで大体の流れをイメージできるのではないかと思います。特にご意見がなければ、このスケジュールでこの計画（案）の案を取らせて進めていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（異議なし）

○岩本会長 それでは、今後、この計画にも関わってくるんですけれども、協議事項の三つ目ですね、グループ活動の振り分け（案）について、事務局からご説明をお願いいたします。

○外川課長 それでは、資料6をご覧ください。

令和3年度に副会長をリーダーとし、交流会、セミナー、動向集作成という三つの取組について、グループ活動として位置づけて、活発な取組を進めていただきました。

令和4年度は、こうした流れを受けて、基本的には、昨年度に所属したグループ活動に継続していただく方向で、事務局のほうで振り分けを行いました。

本日の本会議に先立ち、委員の皆様には事前に資料を送付しているところですが、このグループ活動の振り分け（案）について、事前に佐々木委員からご意見をいただいております、現在、佐々木委員と小阪委員のお二人なんですけれども、実は交流会、セミナーと二つのグループに所属していただいております、佐々木委員のほうからは、一つに絞ってセミナーグループでお願いしたいという話がありました。

また、小阪委員のほうは、本日欠席ではございますが、事前にお話をする機会を設けまして、これまで同様、二つのグループで差し支えないというご意向を賜っておりますので、そうしたご意見をここでお伝えしたいと思います。

私のほうから、説明は以上になります。

○岩本会長 ご説明ありがとうございます。

佐々木委員には、昨年度1年目で二つのグループに入らせていただいて、ちょうど準備の時期も重なっているので、メーリングリストなども両方から届くのはご負担が多かったと改めて思ったところです。

それでは、今の佐々木委員からのご意見、あるいはほかの皆様からのグループの振り分け（案）について何かご意見、ご質問がございましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

（なし）

○岩本会長 特にご意見がなければ、佐々木委員のご所属はセミナーグループをご担当いただくということで、そのほかはこの案どおりで決めさせていただきたいと思っております。よろしいでしょうか。

（異議なし）

○岩本会長 ありがとうございます。

では、以上で本日の議事ですけれども、終了です。

次に、皆様から地域活動などで日頃感じていらっしゃることで、先ほども本年度の活動方針（案）でいろいろご意見をいただいておりますけれども、本協議会で取り上げるテーマ、そして、交流会、セミナー、動向集の活動に関連して、感じていらっしゃることで、もっと協議会ではこの辺りに力を入れたらどうかとか、こういうような工夫はどうかということをご発言する時間を取りたいと思っております。

この後、グループに分かれて話し合いをしていただくので、できれば全体で共通するような地域課題や、この協議会のテーマに関するご意見とか、お感じになっていることをお話いただけると、グループディスカッションにも入りやすいかなと思っております。

大きな振り方ですけれども、皆さん、何かご意見があったら、是非お願いしたいと思います。いかがでしょうか。

今、課長と打合せをしましたが、せつかくですので、今年度から協議会の委員になっ

てくださった方、新鮮なところで、地域で課題として感じていらっしゃるごこととか、この協議会のこういうテーマなら、この辺りはどうだろうというようなアイデアがありましたら、ご発言いただきたいと思うんですが、いいですか、振らせていただいて。

では、荒木委員、いかがですか。すみません、突然振って。荒木委員、聞こえますか。

○荒木委員 はい、ありがとうございます。

私自身は、オープナーのほうに異動したのが4月なので、就労支援をまだそんなにやっていないので、どちらかというと、その前にいた生活支援というところで課題というところをお話しさせていただいてもよろしいでしょうか。

私、国立市のほうの地域活動支援センターのI型のほうで支援をしていたんですが、生活支援の中で感じるのは、やはり言葉が難しいんですけども、いろんな支援をしている中で、先ほど出たまさに当事者の支援をしている中で、実は背景に家族の課題とかみたいなのがたくさんあって、俗に言う8050問題みたいなことが結構起こっている。それも結構リアルに体験していて、そういったことの解決を図っていくときに、やはり一障害者の支援機関だけでは解決しないような問題がたくさんあって、そこをどういうふうにしていくかということは、行政機関だとか、高齢者機関だとか、いろんなところの機関と連携して解決していくみたいなこととか、やはりそれにはかなり時間がかかっていくというようなことをかなり体験しました。

そういった問題が生活支援だけではなく、ここ1か月ですけれども、就労支援の中でも実は同じようなことが起こっているということを感じています。すみません、長くなっちゃったんですが、そういったような本当に俗に言われているような支援の複雑化みたいなことがかなり感じているところです。すみません、ちょっとうまく話せませんでした。

○岩本会長 ありがとうございます。先ほどの当事者とは誰かということと重なるんですが、やはり家族という単位での支援が必要であったり、先ほど久保委員もおっしゃっていましたが、地域移行のときに家族の意向が強く反映されて進まないこともあったりとかということで、やはり家族という視点に立つということの重要性ということをご発言いただいたと思います。ありがとうございます。

では、新しい委員の方にすみません。秋山委員、いらっしゃいますでしょうか。

○秋山委員 はい、秋山です。

○岩本会長 よろしいですか。ご意見いただけますか。

○秋山委員 施設に入所されている方やグループホームに入居されている方が地域に戻りたいとおっしゃったときに、生活の場をどうしようか、使える社会資源は何があるんだろうか、等を考えます。

先ほどご家族をどう支援していくかというようなお話もありました。その方が本当にどう思っているのかなということをお話を大切にしていきながらとも思いますが、現実的なところで、うまく進まないところもすごくいっぱいあり、日々、係の職員とどうすればこの人にとって一番いいんだろうねというようなことの視点を持ちながら業務に当たっています。

答えになっていないのかもしれないんですけど、その方の本当のところの思いってどこにあるんだろうなというのが大切にできたらいいなというふうには思っています。

以上です。

○岩本会長 ありがとうございます。社会資源という話が出ていましたけれども、やっぱり地域移行を進める上では、そういった資源が絶対的に不足している。あと、その方に合った資源がなかなかないということも多々あると思いますので、資源開発とか、そういったことも含めた話も必要だなというふうに思います。ありがとうございます。

それでは、すみません、稲垣委員、聞こえますでしょうか、お願いしてもよろしいでしょうか。稲垣さん、聞こえますか。

(※事務局注：通信環境が不安定のため途切れてしまいました。)

○岩本会長 すみません、稲垣さん、申し訳ないです。音声が何か途切れてしまうみたいで、申し訳ありません、お願いしておきながら。グループに分かれたときもいろいろご意見いただくときに、ご発言いただけますでしょうか。

では、進めさせていただきます。

東條委員、いかがでしょうか。

○東條委員 私のほうが4月に着任しまして、こうした福祉保健局での業務が初めてというところもあって、まだまだいろいろと勉強中のところも多々あるんでございますけれども、先ほどもお話に出ておりました一つの支援機関では解決をしないというようなことなどは、本当に支援をしていく中ではそういったことは多々あるのだろうというふうに思っております。

先ほど、お話しさせていただきました、別途、またお話しさせていただきたいというふうに申し上げた相談支援体制の整備もそうですし、地域生活支援拠点の設置推進というところもそうですけれども、一つのところに相談をしたら、例えば相談支援だったりですか、住居の問題、就労の問題、医療の問題、いろいろと地域の中でネットワークが作られていれば、一つ相談したときに必要な支援にネットワークの中でつながっていくというようなことが、やっぱりあるのかなというふうに思いますので、そういったところを見据えて取り組んでいけたらいいのかなというふうに考えておるところです。

以上になります。

○岩本会長 ありがとうございます。このネットワーク、連携というのも重要なキーワードなんですけれども、具体的に進めていくところで、なかなか難しいところもあって、それをどうクリアできるかということもいろんな皆様のアイデアを出し合いながら考えられるといいと思って伺いました。ありがとうございます。

すみません、立仙さん、聞こえていらっしゃるでしょうか。

○立仙委員 はい。

○岩本会長 一言、お願いできればと思いますが。

○立仙委員 私もこの4月に着任をしたんですけれども、先ほど荒木委員がおっしゃったように、複合的な課題を抱えるような家族がすごく増えているところで、私、前職がこども家庭支援センターだったので、まさにヤングケアラーというような視点もありました。

なので、先ほど来出ているように、当事者というのをどこのところに、誰を当事者として捉えて支援をしていくかというのは、すごく難しいことかななんて思っております。

その中で、誰もが当事者になり得るわけですから、そういったところではもっと複合的に、いろいろな資源を使っての支援が本当に必要だなと感じています。

そのいろんな資源を、ではコーディネートをするのが一体どういうような仕組みで誰がどんなふうに付き合っていくのかななんていうのが、具体的に進められたり、メールができたしたりしたらいいかなんていうふうに思っております。勉強させていただけたらと思います。よろしくお祈りします。

○岩本会長 ありがとうございます。確かに、複合的な課題に取り組んでいくと、いろんな関連機関や関連の部門が連携する、そうすると、コーディネート力というのが本当に問われているところで、その難しさを日頃お感じになっているというご意見だと思います。ありがとうございます。

今年度、委員になってくださった方にご意見をいただいたんですけれども、ほか、いかがでしょうか。

中村委員、聞こえますか。

○中村委員 はい、聞こえます。

○岩本会長 中村さん、日頃お感じになっていることをよろしければご発言いただけますか。

○中村委員 そうですね、ちょっといきなり話を振られちゃったんで、何と言っていいのやら。

- 岩本会長 例えば何か地域でこういう支援があったらいいのになと、日頃感じることもかありますか。
- 中村委員 先ほど、皆さん何かもう一通りお話しなされたので、何を話すかという、ちょっとあれなので、また何か思いついたときにお話しさせていただきたいので。
- 岩本会長 すみません、突然で。後でまたグループでも意見交換しますので、そのとき何か思いつくものがありましたら、是非ご発言ください。
- 中村委員 そうですね、はい。よろしく願いいたします。
- 岩本会長 では、すみません、村中さん、いいですか。
- 村中委員 何も考えてないよ。何を言えばいいの。
- 久保委員 困っていることはありますか。
- 村中委員 困ったことありますか。
- 久保委員 何かある、ない。
- 村中委員 私はありませんけど。
- 久保委員 ないそうです。
- 岩本会長 すみません、「困ったことありますかと言われるのが一番困る」とよく言われているのですが、すみません。また、村中さんもグループに分かれたとき、思い出したらご発言ください。

皆様のほうからは、よろしいでしょうか。少しいろいろなご意見を出していただけたので。すみません、藤井さん、お願いいたします。

- 藤井委員 すみません、手を挙げずにごめんなさい。
- そうですね、地域の中での課題は、多分、いろいろあって、先ほど久保委員だったと思いますが、移動支援の話を出していただいたと思いますけれども、実際のところ、やっぱり僕は居宅サービス事業者ネットワークというのを都内でやっていて、その中は移動支援をやっている事業者は多いんですけれども、やっぱりコロナ禍でかなり事業自体も制限されたりとかして、移動支援がそれぞれの自治体の運営になっているので、実態としてうまくいっている自治体と、うまくいっていない自治体とがかなり差が激しかったり、ヘルパーが足りない、ヘルパーが足りないと言いながら、自分のところで養成研修できない地域も非常に多いので、なかなかこれでは多分、増えていかないなと思っている、移動支援はそんな感じですけど。

私が今いる豊島区なんかだと、施設入所支援されている方の余暇として、移動支援を使えないのかね。一応、帰省をするときは使えることになっているので、年間、限られた日数で利用することはできるというふうに認めてもらっているんですけど、大本の恐らく国が多分、日中のところの移動支援を余り認めていないみたいなので、日中は違うサービスを使えないようなイメージが非常に強くて、なので、施設入所すると、そこの中での余暇とか、職員と個別に外出するみたいな感じになっちゃっていると思うんですけど、そんなような課題とか、あるいは、今回、参考資料でつけていただいたのは、地域生活への移行に関する実績をつけていただいたと思うんですけど、施策推進協議会か何かのほうでは恐らく待機者か何かの実績も出していると思うんですけどね。施設入所の希望者がまだ1,400人ぐらいいるというふうにこの間、聞いたんですけど、そのぐらい年々若干増えているんじゃないかという話もあるので、実際のところ地域移行を進めていくということを考えるならば、もう少しやっぱり地域の中の資源を充実させていかないと、到底、地域移行はできないんじゃないかというふうに思っています。

それから、ごめんなさい、もうちょっとしゃべらせてください。

国は、今、法改正をする予定にしている、グループホームだとグループホームからの卒業みたいな感じで通過型のグループホームが制度化されるような話が、今、出ていると思うんですけども、そういうようなグループホームの暮らし方も通過型にするなり、あるいは、この間

聞いた話だと、江東通勤寮さんが連携型のグループホームとかというのをやっていたらというのを聞いて、何か新しい取組なんだろうなというふうに期待しているんですけども、そんなような暮らし方も違う、今までとは少し発想を変えないと、恐らく地域の中で暮らし続ける、あるいは地域に移行してくるということがなかなか難しい状況だろうというふうに感じているところです。

なので、恐らく地域で暮らすとか、地域に移行するとかという課題は本当にたくさんあるので、また交流会とかでもそういう話ができればいいかなというふうに感じています。

以上です。

- 岩本会長 藤井委員、ありがとうございました。先ほども、絶対的に必要な資源が不足しているという話もありましたけれども、使い方とか組合せとか、どれだけ柔軟にそれができるかということも課題としてあると伺っていて思いましたし、各自治体、いろいろ工夫をしながら進めているような例もあると思いますので、この協議会は東京都内の各地域の協議会の交流とか情報共有ということもとても重視していますので、そういった情報共有の機会になればいいなと思いました。ありがとうございました。

十分な時間はとれませんでした、貴重なご意見をいただきありがとうございます。

今のご意見も参考にしながら、今年度の三つのグループの活動の具体的な企画を立てていただければと思っています。

交流会は、各地域の協議会に関わっている方々が、それぞれ地域の実情とか課題とか工夫点、そういったものを持ち寄って自分たちの協議会活動の次の発展につなげていくための、いろいろなヒントをもらうというのが趣旨ですので、各地域の取組などを共有できるような企画を立てていただけるとありがたいと思っております。

一方、セミナーに関しては、広くいろんな方に参加していただいて、こういう課題が東京の中ではあって、それにいろんな立場の人が関わって取り組んでほしいということを発信するところが主題になっているかと思えます。

動向集は、各協議会の今の現状ということを見える化する、それで、それぞれが情報として活用したり、自分たちの協議会の位置を確認するために活用してもらうこともあると思っています。

この三つの協議会の企画につなげてディスカッションしていただきたいと思っています。確認なんですけれども、昨年度は交流会がフルオンラインということで、本当に大変だったと思うんですけれども、今年度は一応、対面開催ということで、いいですか、これをご説明いただいて。

- 外川課長 コロナの状況にもよりますが、現段階で予定していますのは、茗荷谷の研修センターをお借りして、十分、施設研修の会場のルールも守りながら、ソーシャルディスタンス等の感染予防対策も講じながら、できる限り皆さんと顔を合わせて交流できるようなことを考えていきたいと思っています。

以上です。

- 岩本会長 ありがとうございます。やはりフルオンラインは交流会はきついなとつくづく思いましたので、今のようなご説明をイメージしていただければと思います。

そうしましたら、続けて、グループ討議のほうに入りたいと思います。グループ討議に入る前に、事務局のほうからご説明をお願いいたします。

- 外川課長 それでは、これから、グループ活動のグループごとに分かれて、今年度の活動について意見交換をお願いしたいと思います。

令和4年度の活動方針は、「当事者の声・願いを中心とした地域移行・地域生活支援における課題を考える」という、この活動方針に基づいて各グループでの活発な意見交換をお願いしたいと思います。

これから事務局のほうで、グループごとに話し合いのできる環境を設定していきますので、5分ぐらい少しお待ちください。

なお、グループ討議については、非公開とさせていただきます。その後、3時30分、15時半に、全体会を再開いたしますので、本日傍聴されている方は、15時30分になりましたら、再度、お入りいただくとありがたいと思います。

その後、討議結果について、各リーダーさんから報告がありますので、よろしくお願ひしたいと思います。

私からは以上です。

それでは、これからグループに分かれて、設定をしていきたいと思ひますので、事務局のほうでお願いしたいと思ひます。

それでは、一旦これで、5分お待ちください。

以上です。

(グループ討議)

○岩本会長 それでは、全体会を再開いたします。皆様、グループに分かれての討議、お疲れさまでした。

皆さん、オンラインで工夫されながらご協議いただいたと思ひます。ありがとうございます。

それぞれグループでどのようなお話があったかというのを報告していただきたいと思ひます。その前に、1点、先ほどの協議事項で、今年度の活動方針のテーマを皆さんからご意見いただいて、修正したところですが、改めて日本語表現の適切さというか、主従関係を見ると、当事者を中心とした課題と読めてしまう。そういう意図ではないので、本来の意図をもう一度確認して、少しだけ文言を変えさせていただきたいと思ひます。今から申し上げます。

「当事者の声・願ひを中心に置いて、地域移行・地域生活支援の課題を考える。」この表現が誤解がないかなと思ひましたので、こちらの文言に変えさせていただいてよろしいでしょうか。

よろしいでしょうか。すみません、先ほどは頭がすぐ動かなくて、改めて日本語を整理すると、こちらのほうが間違いないかなと思ひ次第です。皆様、特にご意見がなければ、こちらのテーマにさせていただきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

それでは、各グループのリーダー、副会長からご報告いただきたいと思ひます。順番に、交流会グループの秋元副会長、お願ひいたします。

○秋元副会長 秋元です。

交流会グループは、交流会が8月末に決まっているということで、どんなふうなテーマでというところを話し合いました。

それで、その中で先ほどの議論を含めて、当事者というのをどこに置くかという話も出たんですけども、その中でやっぱりいろんな当事者から話を聞いて、それを協議会の中で様々な社会資源が必要なんだということを改めて持ち帰ってもらえたらというところで、今回はシンポジウムは、欲張りなんですけど三障害の方と、あとはご家族、施設や病院から地域生活されている当事者のご家族にもお話しいただいて、施設や病院生活と今の地域生活と、どんなふうに変ったのかというところに焦点を当てて話していただいて、その後、グループで、それぞれで自分の地域で、どんな地域資源を作っていけばいいのか自立支援協議会でどんなことを議論していけばいいのかというのを、幅広い視野で持ち帰ってほしいなというようなことを話し合いました。まだテーマとかは決まっていらないんですが、そんなような方向性で交流会を進めていこうというふうな話になりました。

やはり、昨年度から参加している方々は、オンラインではなく会場でやったほうが雰囲気だとか、そういうので話も盛り上がりだとか、肌感を感じたりとかというのがあるんじゃない

かということで、コロナの状況はあるだろうけど、できるだけ会場でやれる方向がいいなという話は出ました。

以上になります。

- 岩本会長 秋元副会長、ありがとうございました。最後のところで、実施方法についてのお話もあったということですが、コロナ前は全体会を設定していて、全体でシンポジウムを聞いたり、グループでの交流会の後に全体会でグループで話し合った内容を報告するという流れでした。コロナになって全体会のところを省略したり、シンポジウムはオンライン、動画配信にして、交流会のグループ討議は対面で開催したこともありましたが、昨年度はすべてオンライン開催という状況だったんですね。

だから、それをなるべく対面で行う際に、どの範囲で対面が可能か、あとはシンポジウムの動画配信を会場で見るとか、事前に見てもらおうのかということも考えられると思いました。シンポジストが結構大勢いらっしゃる場合、その辺りの手順を詰めていただけるといいと思いました。ありがとうございました。

では、続きまして、セミナーグループの森山副会長、お願いします。

- 森山副会長 すみません。様々な意見が出ました。地域移行をした後、地域生活についての支援とか、または入所されている人、または病院にいる人の実際の声を聞いてみたいというご意見とか、やはり医療との連携、健診とか、かかりつけ医のこととか、そういった様々な話題が出て、先ほど全体会にも出ました社会資源の問題、こういったことも考えてみようということになりました。

その中では、やはり地域包括ケアシステム等を福祉だけではない医療とか、または地域とか、様々な関係機関、または人たちが人垣になって、その人の生活を支えていくというようなシステムについて、いい取組をしているところの話を知りたい。または、入所をされている人、移行される人も全く別の体験がないということで、一択だという話があったんですね。これはどうですかという、もう一択しかないということの話も出て、それはそうだということで、地域生活支援拠点の五つの機能の中に、体験というのがあると思うんですけど、グループホームの体験だったりするんですけど、こういった地域生活支援拠点はいろんな各地域の自立支援協議会でも出ていますけども、各圏域に一つと国は言っていますが、やはりハードなものではできても、その内容については様々であろうと思うんですね。こういったしっかりと24時間電話サービスであるとか、グループホームの体験であるとか、そういったことを活発にやっているところの話も聞いてみたいというようなことも出ました。

なので、社会資源を含めたことを検討していこうという方向性は、そういった感じにまとまってきたような感じがします。まだ30分か40分での話ですので、これから詰めるところで、方向はそういった社会資源、地域移行、そういうふうな人、または在宅生活困難者という人たちがいるんですね。先ほどもお話に出ました50、80の問題もありますけども、やっぱり家で暮らしていても生活が難しいという人が親が高齢な、親一人、子供50代、60代になったような人たちとか、精神の方でもお一人暮らしの人とか、やっぱり在宅であっても生活が困難な人もいるということで、こういう人たちを地域で支えるということも考えた、そういう包括ケアみたいな社会資源の取組を、いい取組をしているところをお話を聞いてみたいというような感じがいたしました。

以上です。

- 岩本会長 森山副会長、ありがとうございました。実際、地域移行・地域生活を進めていくには様々なものを動員しながら、その人の希望を含めてどう組合せていくのかとか、どのように応用していくのかとか、そうした具体的なモデルを示すことができないかということですね。私も是非聞きたいと思いました。ありがとうございます。

では、続きまして、動向集グループの石川副会長、お願いします。

○石川副会長 私どものところでは、動向集という本でいきなり話をするよりも、まず地域生活支援の実態としてそれぞれご意見をいただこうかなと思ってお話を聞きました。

昨年の動向集の変化としては、当事者の委員がどのように参画しているかということでプラスアルファされているわけですが、例えば私自身の実感でもありますが、本人と親御さんの認識の差といいますか、保護者の方はそういうふうを考えていない。なので、ご本人はもっと自立したいと考えているかもしれない。ただ、案内していくというのは全国規模の入所の施設だったりというところが、やはりどうしても多くなっていってしまうというところで、意思の表明をどういうふうにしていったらいいのかということですね。ご自分で意思を明確に表明できる方はいいんですけれども、知的障害、精神障害のほうの方でなかなかおっしゃられない方をどういうふうにくみ上げていくかということになっていくと、やはり親御さんの意見にどうしても左右されてしまうというのを、そこをどうやってくみ上げていくような工夫をしているかというところ。

それから、あと、今、宿泊体験のお話もありましたけれども、やはり体験をしている、経験が少ないという部分で、自分の意思の表明というところが、なかなか表明する意思まで固まらないといいますか、そういうところもあると思うんですけれども、そういうところを体験する場所というのを作っていきこう、私も今、作っていきこうと思っているところなんですけど、作っていきという部分と、それから、それをネットワークで支援していくことで意図をあぶり出していきというか、本人の本当の意図を出していきというようなことが大事なのではないか、そういったことを各自治体でどういうふうに行っているかということが聞き出せるような設問を入れていったらいいかなというふうに思ったところです。そんなような話合いが行われました。

時間が足りなかったです。以上です。

○岩本会長 石川副会長、ありがとうございます。本当に短い時間で話し合っていたいて。私、最後の方で動向集グループに少し入らせていただいて、実際に地域生活支援を進めていく上での補助金事業とか、それをどう使っていくのかというご意見も出ていたと思ったんですね。その辺りも重要な情報だと伺っていて思いました。ありがとうございます。

この三つのグループの記録というのは、何か共有できるんですか。

○事務局 議事として書き起こすことは可能です。少しお時間いただくかもしれないんですけど。

○岩本会長 分かりました。すみません、突然振って。といいますのは、それぞれのグループの話がそれぞれ関連性があると思ったんですね。森山副会長からだったでしょうか、それぞれがグループで、よーいどんで動いていくので、ほかのグループがどういうことをやっているか、そのすり合わせが難しいというご意見をいただいていたいて、本当にそのとおりでなと思いました。

ですので、可能であれば、本当に項目だけでも、グループであげられたご意見をほかのグループも共有できると、またそれぞれの活動の参考になるのかなと思いました。その辺り、また事務局とご相談させていただければと思います。

それと、具体的にテーマ設定とか、企画をしていただく際に、過去にもいろいろなテーマ設定をしていて、意思決定支援は一昨年のセミナーのテーマだったということもありますので、副会長さんには過去四、五年ぐらいのセミナーや交流会のテーマなどを確認していただいて、それも参考にしながら、また新たに発展させた企画にさせていただけるとありがたいなと思いました。

短い時間でしたけれども、ディスカッションしていただいてありがとうございます。この後、続きは、またメーリングリストであったりとか、あと、副会長さんのお声がけで必要に応じてオンラインで打合せをすとか、そういったことを進めていただければと思います。

以上で、このグループ討議の報告に関しては、よろしいでしょうか。大丈夫ですか。

では、これをキックオフとしてそれぞれのグループの企画を進めていただければと思います。よろしく願いいたします。

では、本日予定しておりました議題は以上となります。

最後に、事務局に司会をお戻ししたいと思いますので、お願いいたします。

○外川課長 本日は、活発なご議論を賜り、誠にありがとうございました。

皆様の意見を踏まえて、今年度の活動方針である「当事者の声・願いを中心に置いて、地域移行・地域生活支援の課題を考える」という取組を事務局としても精いっぱい応援しながら進めていきたいと思っております。

いろんな意見をいただいて、ものすごくいい取組にしていきたいと思っておりますので、引き続きご理解とご協力のほど、よろしくお願ひしたいと思います。

それでは、これもちまして本日の第1回目の本会議を終了したいと思います。

本日欠席だった小阪委員、増島委員のほうも、意見がまとまらないぐらいたくさんのお思いがあると思っておりますので、またグループで皆さんのいいところを引き出して、いい取組をどんどん進めていただけたらなというように思っております。

本日は、ありがとうございました。

(午後3時52分 閉会)